

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立天王寺川中学校

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～						
重点目標		①自ら学び考える主体的な力を育む。②ICT機器を積極的に活用して、わかった、できたと実感できる授業を展開し、基礎・基本の定着及び活用する力の向上を図る。③問題行動や不登校生徒の減少に向けた未然防止・早期対応の充実を図る。⑤ホームページ、メール配信等を有効に活用し、天中の教育を積極的に発信する。⑥感染症対策に努め、子どもたちの学びを止めない。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。</li> <li>・週末課題を習慣化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼学習、放課後学習、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。</li> <li>・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。</li> <li>・家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、放課後学習や土曜スクールを実施するとともに、可能な限り参加の呼びかけを行う。</li> <li>・感染症対策を徹底し、可能な範囲で終礼学習を実施する。</li> <li>・授業は「わかりやすく楽しい」と感じる生徒の割合を75%以上にする。</li> <li>・ICT機器の使用回数を月に500回以上にする。</li> <li>・家庭学習をする習慣がある生徒の割合を75%以上を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底した上で計画を立て、HP、一斉メール等で周知した。その結果、参加生徒の平均が33.2人(昨年度28人)となり増加した。しかし、感染症の影響により、出前授業等は中止した。</li> <li>・終礼学習の充実を図ることができた。個々の学力に応じた内容で実施することが必要である。</li> <li>・授業は『わかりやすく楽しい』と感じる生徒の割合が81.1%となり、目標を達成することができた。</li> <li>・積極的に職員がICT機器を活用した結果、月の平均が1836.3回となり、目標値を大きく上回った。</li> <li>・家庭学習の習慣がある生徒の割合が68.2%と、70%を下回り、家庭学習の習慣化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、実施するとともに、GoogleClassroom(新たなメール機能)、HP等を活用し、参加の呼びかけを行う。</li> <li>・来年度も、感染症対策を徹底し、可能な範囲で終礼学習を実施する。個々に応じた内容を検討する。</li> <li>・より一層、ICT機器(1人1台タブレット)を効果的に活用するなど、指導の工夫を行い、生徒にとって「わかりやすく楽しい」と感じることができる授業づくりに励む。</li> <li>・効果的な活用方法を各教科の特性に合わせて検討・実施する。</li> <li>・家庭学習の習慣化を図るため、授業やHP、学校だより等を活用して積極的に情報提供を行う。また、校区の小学校とも連携した対応を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策を徹底しながらの開催であったが参加した生徒にとっては、学力の基礎基本の徹底につながったと考えます。</li> <li>終礼学習が固定化することにより、より一層の学力の向上につながると考えられるので、今後も充実させることを願います。</li> <li>生徒がわかりやすく楽しい授業であると実感することはとても素晴らしいことだと感じます。また、ICTを活用することにより主体的で深い学びにつながると考えられるので、今後も効果的な活用について考えてください。</li> <li>家庭学習の習慣化は毎年大きな課題としてあげられています。中学校だけの問題ではなく幼小中の連携のなかの大きな課題だと考えられます。</li> </ul>
	学習規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席を徹底する。</li> <li>・学習環境の整備を進める。</li> <li>・よく聴く姿勢を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動等を活用し、生徒一人ひとりが自主的に時間を意識できるように取り組む。</li> <li>・集中清掃や美化委員会の呼びかけによって掃除の意識を高め、教室を整備する。</li> <li>・授業中、今は何をやる時間であるかを目に見える形で提示し、聴く時間、書く時間などを生徒に意識させる。また、話を聴く時は目を見て聴く、姿勢を正すなどを習慣化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席を守れている生徒の割合が90%以上であることを維持し、準備物もそろえて静かに待てるようにする。(A評価は50%以上にする。)</li> <li>・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</li> <li>・「人の話を聴く姿勢が出来ている」と回答する生徒の割合を90%以上にする。(A評価は40%以上にする。)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャイム席を守れている」と回答した生徒は97.0%であり、目標を達成することができた。ただ、静かに待つことができていないことが課題である。(A評価は平均72.3%で目標を達成した。)</li> <li>・「学校や教室が生活の場として整っている」と回答した生徒が89.0%となり、目標を達成することができた。カーテンや床などのメンテナンスに課題がある。(A評価は平均36.1%)</li> <li>・「人の話を聞く姿勢ができています」と回答した生徒が平均92.5%と目標を達成することができた。(A評価は46.7%と目標は達成した。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に静かに待つために、委員会活動を活用し、生徒一人ひとりが自ら、1分前には自席について静かに待つ習慣を身に付けさせる。</li> <li>・生活の場として教室環境が整えられるよう引き続き、清掃、整理整頓の呼びかけを継続する。</li> <li>・話を聴く時は目を見て聴く、姿勢を正すなど、聴く姿勢の指導について、継続した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベル着は天中生では当たり前のことだと考えられます。チャイムがなって先生が来るまでに何をすべきかという一つの課題に向けて取り組んでください。</li> <li>学校がきれいであることは荒れていない学校の証拠でもあります。きれいな環境からきれいな心が宿ります。子どもたちの一人一人の実践力に期待します。</li> <li>人の話を聞くだけでは受動的な授業の受け方になります。聴いたことをこれまでの自分の経験や情報力聴いたことに対して論理的に意見が述べられるように指導してください。</li> </ul>

	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書を実施する。昼休みの時間を確保し、密を避けて、積極的に昼休みの図書室開放を行う。</li> <li>授業で利用する頻度を増やす。感染症対策として、授業での図書室の利用は分散して行う。</li> <li>学校図書司書と連携し、図書館祭り等を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1.5冊以上読書する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍にありながらも、図書に関する啓発活動を積極的に行い、月平均が2.02冊と目標を達成することができた。</li> <li>授業において、積極的に図書室を利用し、調べ学習や読書指導等を行うことができた。</li> <li>学校図書司書との連携により、図書館まつり、図書館クイズ、図書委員お勧め本のブックトークなど充実した活動が行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の様々な制限の中で感染症対策を徹底し、積極的に昼休み・放課後の開放を継続する。</li> <li>授業での図書室の利用を、より一層増やす。また、朝読書のルールを定着させ、読書活動の充実を図る。</li> <li>学校図書司書と連携し、読書活動を推進させるために、読書指導や図書紹介、図書館まつり等の充実を図る。</li> </ul>	<p>コロナ禍の中で図書館の開放は非常に難しいと思いますが感染症対策を徹底しながら継続的な開放をすることで生徒の読書力の向上につながり併せて生徒の心の耕しにつながったと考えられる。</p>
豊かな心・健やかな体	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導に取り組む。</li> <li>問題行動の予防に努める。</li> <li>いじめ問題への対応力の向上に取り組む。</li> <li>不登校の予防に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。</li> <li>地域のパトロール回数を増やす。</li> <li>年に2回、教育相談週間を設け実態把握を行う。</li> <li>感動のある行事を行う。</li> <li>Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。</li> <li>連絡なしに登校していない生徒はすぐに連絡し、様子を確認する。</li> <li>職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生は良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」と回答する生徒の割合を90%以上にする。</li> <li>地域のパトロールを月1回行う。</li> <li>「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」と回答する生徒の割合を昨年度以上にする。</li> <li>「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」と回答する生徒の割合を90%以上にする。</li> <li>不登校生の割合を昨年度以下にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生は良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」と回答した生徒は93.2%と目標を達成することができた。また、共通理解事項を全職員に周知することができた。</li> <li>パトロールを月平均2.5回実施することができ、注意喚起や非行の未然防止に努めた。</li> <li>コロナ禍により様々な行事が計画通り実施することができなかったこともあり、「学校へ行くのが楽しい」は84.4%（昨年度86.1%）「学校行事は楽しい」は88.4%（昨年度89.9%）となり、目標値を下回った。ただ、代替の行事を行うことで生徒たちは楽しむことができた。</li> <li>「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」は87.8%（昨年度79.8%）と大幅に増加したが、目標値を下回った。</li> <li>相談体制を充実させ、生徒との信頼関係を構築し、些細な変化などに気づくことができた。</li> <li>不登校の割合が昨年度より減少した。放課後登校や別室登校など個々に応じた対応や関係機関と連携した対応を行った。生徒に自尊感情や自己有用感を感じられる教育活動を積極的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織体制を、より一層充実させ、共通理解や連携を徹底する。</li> <li>継続して月1回以上のパトロールを行う。</li> <li>充実感や達成感を感じられる授業や普段の生活の声かけ等により、生徒の自尊感情が高められるよう努める。また、自尊感情の醸成を図るための教員研修を実施していく。</li> <li>事務処理の効率化を図り、家庭訪問などの時間を確保できるよう図る。</li> <li>魅力ある教育活動に努め、不登校を未然に防止できるように教師間で連携する。</li> <li>SC、SSW、関係機関等とも積極的に連携を図り、不登校生の減少に努める。</li> </ul>	<p>先生の指導体制に好意的な回答を示していることは先生たちの日々の取り組みが評価されていることにつながっていると思います。</p> <p>コロナ禍で難しい状況ですが地域に天中の先生方の顔を見えることは今後の活動に大いに役立つと思います。先生方の多忙化が心配です。</p> <p>様々な状況の中で学校行事の実施が制約されていました。生徒の自尊感情が低下することは想定されますが、先生たちの労いの一言が子どもたちの気持ちを明るくしていると思います。</p> <p>不登校については全国的に増加傾向にあると聞いています。不登校の未然防止のため様々な取り組みをされていると思いますが、子どもたちが学校にいきたい気持ちが起こる学校になるよう学校の教育活動全般において考えてほしいと思います。不登校の理由として身体の不調が要因の一つとしての結果が出ています。心療内科等の医療機関に通院している生徒も少なくありません。先生だけが抱え込むのではなく、様々な関係者を巻き込んだ取り組みが必要だと感じます。</p>

	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の教育」を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が人に大切にされていると実感できる題材や、ストレスマネジメントについての教材などを用いた教育を、道徳・学活・総合などを中心に実施する。</li> <li>・生徒会活動や部活動等を通して、自ら進んであいさつする習慣の大切さを伝えていく。</li> <li>・教師から積極的にあいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</li> <li>・「あいさつをきちんとできている」と回答する生徒の割合を80%以上にする(A評価で50%以上にする)。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合は生徒は91.2%、保護者が92.3%と目標を達成することができた。</li> <li>・「あいさつをきちんとできている」と回答したの割合が生徒88.4%、保護者87.6%と目標値を達成することができた。(A評価は生徒は55.5%で目標値を上回った。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面において、自尊感情、自己有用感を高められる教育活動を積極的に行う。</li> <li>・生徒会や部活動等を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。挨拶運動だけでなく、常日頃から、あいさつの重要性を伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情を高めることは人間の人格形成で重要なことだと考えます。今後も学校における全教育活動において推進してください。</li> <li>・あいさつは人間関係を構築する出発点であると考えます。自ら進んであいさつをする取り組みを今後も実践してください。</li> </ul>
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣の獲得を図る。</li> <li>・部活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会や終礼等で早寝・早起き・朝ごはんについて、家庭への協力を依頼する。また、生徒にやりとり帳の就寝・起床時間、朝食欄への書き込みを促し、自身の生活リズムについて意識を高めさせる。アンケート項目を、「早寝早起き」「朝食」に分け、より具体的なアプローチ方法を分析する。</li> <li>・充実させる内容(目標)を各部活動で持たせ、活動していく。</li> <li>・部活動で学んだことが、実生活で役に立つことを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「規則正しい生活習慣を送っている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</li> <li>・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「規則正しい生活について指導している」と回答した割合は教師が90.5%、保護者が90.2%と目標を達成することができたが、生徒の割合は78%と目標値を下回った。</li> <li>・朝ご飯を食べていない生徒が目立つことから、朝食の必要性について指導した。</li> <li>・感染症対策により、活動内容や時間等が制限にあったが、「部活動が充実している」と感じる生徒の割合が91.6%(昨年度90.2%)と目標を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが規則正しい生活習慣を送れるよう、保護者と連携し、支援・指導を行う。</li> <li>・目標に向けて取り組むことの大切さなどを継続して指導し、さらなる部活動の活性化を図る。</li> <li>・部活動を通して自己肯定感を高め、「夢や誇り」を持たせ、さらなる改善に努める。</li> <li>・諦めず、最後まで粘り強く取り組むことの大切さを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響も関係していると思いますが基本的な生活習慣が崩れる子どもが増加していると感じています。とくにアンケートから朝食を食べない生徒の増加は、中学生の心身の発達に大きく影響すると思います。子ども達だけでなく家庭を巻き込んだ取り組みが必要に感じます。</li> <li>・制限のある状況での部活動であったと感じています。しかし、部活動で子どもたちが得るものは人生にとってかけがえのないものだと思います。今後も部活動の充実に向けた取り組みを推進してください。</li> </ul>
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学校情報を発信する。</li> <li>・学校評価の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ上に、学校での様々な情報を積極的に発信する。</li> <li>・学校便り、学年便り、進路便り等を積極的に発信していく。</li> <li>・学校評価の結果を学校運営に反映しやすくするため、質問項目の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを月10回以上更新する。</li> <li>・学校便り・学年通信を合計月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。</li> <li>・学校評価結果を学校運営に反映しやすくするため、年1回2学期末にアンケートを実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの更新回数が月13.7回と目標を大幅に達成することができた。</li> <li>・学年だよりや学年通信を月平均11.6回と目標を達成することができた。</li> <li>・学校評価をホームページに公開できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用し、学校の様子や行事等の情報を積極的に発信する。</li> <li>・GoogleClassroomを積極的に利用し、情報発信を行う。</li> <li>・学校評価の結果を学校運営に反映しやすくするため、質問項目の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ等でコロナ禍における学校の様子を把握することができました。参観日等をZOOM等を利用して子どもたちの様子を把握することができることは、新たな学校の情報発信になると考えます。</li> <li>・学校評価の結果に基づいて学校運営を実施するなかでPDCAサイクルを有効に活用することも必要かもしれません。</li> </ul>

教職員の意識改革と資質の向上	教職員の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業を追求する。</li> <li>・地域・保護者との連携を図る。</li> <li>・校外で研修に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業研究会で学んだことを今後の授業に生かしていく</li> <li>・学力向上プラン及びシラバス(学習計画)に基づいて、教科ごとに課題の改善に努めていく。</li> <li>・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。</li> <li>・校外の研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、授業力・指導力の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年に1回以上の公開授業を行う。(期間中に必ず1回は参観)</li> <li>・校外の研修に平均10回以上参加する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回の研究授業・研究会を実施できた。また、1人1回以上の公開授業を行い、授業改善に努めることができた。今後も研究授業・公開授業などを継続し、わかる授業づくりに努めていく必要がある。</li> <li>・トライやる・ウィークで、地域及び保護者と連携し、活動することができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域行事等の中止が多くあった。</li> <li>・校内研究会で、研究推進委員会が中心となり、計画的に充実した研修会を行った。</li> <li>・コロナ禍であったが、校外の研修会に平均9.6回参加し、ほぼ目標を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業研究会で学んだことを今後の授業に生かしていく</li> <li>・学力向上プラン及びシラバス(学習計画)に基づいて、教科ごとに課題の改善に努めていく。</li> <li>・地域との連携を継続する。</li> <li>・研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、資質の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に深い学びを進めていく中でタブレットを活用するなどこれまでの授業携帯からの脱却を進めて行かなければなりません。先生方の積極的な授業公開を進めてほしいと思います。</li> <li>コロナ禍の中でPTA行事や地域活動が制約されたと思いますが、これまでの行事を踏まえながら今後のPTA行事や地域活動についても新たな視点で取り組む時期にきているのかもしれない。</li> <li>市内公開研究会を実施するなど校外において先生方が積極的に研修会に参加して資質の向上に努められたことは大いに評価できます。</li> </ul>

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策のため多くの教育活動が制限されました。制限された中で先生方は様々な角度から子どもたち一人一人に向き合っていたいただき、大変考慮された学校運営だったと感じています。生徒のアンケートからも高評価がたくさんみることができました。学校の自己評価の内容については概ね評価できると思います。来年度以降学力及び不登校対策が大きな課題になると考えられます。本年度の評価改善策の具体的な取り組みについて期待しています。

#### 次年度に向けた重点的な改善点

**「学力向上」「不登校の未然防止」を本校の喫緊の課題として、研究を重ね、教職員の叡智を結集して取り組んでいく。さらに学校運営協議会でも熟議を重ね、最善の策を講じていく。**

#### <学力向上>

子どもたちがこれからの未来を逞しく生き抜くための「確かな学力」の定着を図る。そのために、各教職員の授業力・指導力を向上させることはもちろんのこと、ICT機器の効果的な活用や「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を図るとともに、「令和の日本型学校教育」の目指す「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。また、家庭・地域との連携を進め、家庭学習の定着及び土曜スクールや放課後学習の充実に努める。

#### <不登校の未然防止>

すべての教育活動を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、学校が子どもたちにとっての「心の居場所」となるよう努める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った